

ICTの提供による社会の持続可能性と生物多様性への貢献 ボートレース整備システム

富士通グループのSDGsへの取り組み

2015年に国連で採択された持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）は、世界全体が2030年までに達成すべき共通の目標です。富士通のパーパス「イノベーションによって社会に信頼をもたらし、世界をより持続可能にしていこう」とは、SDGs達成への貢献を社内外に約束するものです。富士通は、長年にわたりテクノロジーを通じて社会に価値を提供してきたグローバル企業として、社会の変革に主体的に貢献する責任があります。世界をより持続可能にするために、社会に対して、より良い、かつスケールの大きなインパクトを与え、自社も持続的に成長していくことを目指しています。富士通は、2023年5月に発表した中期経営計画において、2030年に向けた価値創造の考え方を示しました。必要不可欠な貢献分野（マテリアリティ）の「地球環境問題の解決」「デジタル社会の発展」「人々のウェルビーイングの向上」への取り組みを通じ、SDGsへの貢献を目指します。

<https://www.fujitsu.com/jp/about/csr/sdgs/>

持続可能な開発のための2030アジェンダ

「持続可能な開発目標」(Sustainable Development Goals : SDGs) を中核とする「持続可能な開発のための2030」は、平成27(2015)年9月25日に、ニューヨーク・国連本部で開催された国連サミットで採択されました。

SDGs(Sustainable Development Goals)

2030 年に向けて持続可能な開発に関する地球規模の優先課題などを明らかにした目標です。17の目標と169のターゲットで構成されています。ミレニアム開発目標（Millennium Development Goals : MDGs）とは異なり、先進国を含む全ての国に適用される普遍性が最大の特徴です。

環境との関連

複雑に絡み合う社会・環境課題に対応していくためには、環境・経済・社会の3つの課題を総合的に取り組む必要があります。環境省では、17の目標のうち、気候変動、持続可能な消費と生産（循環型社会形成の取組等）等、少なくとも、12の目標が環境に関連しているとしています。

ICTによるSDGsへの貢献

富士通グループは、クラウドシステム、モバイルコンピューティング、電子政府など、様々なICTの提供を通じて、国内外のお客様とともに、SDGsへ貢献してまいります。



ボートレース整備システム

「ボートレース整備システム」は、ボートレースの勝敗を左右するボートやモーターの整備記録を電子化し、ボート整備のDX化を実現するソリューションです。従来、ボートやモーターの整備履歴は整備士が紙媒体に記録、レース結果などとともにDB（データベース）ツールへ入力し印刷したものをレーサーが閲覧する運用としていました。当ソリューションは、レース結果などの入力を自動化するとともに、整備士が直観的なUIを備えた整備システムに情報を入力、DB化し、レーサーがタブレットで閲覧する運用に切り替えます。これにより、紙の印刷が不要となるだけでなく、整備士の整備記録作業の負担軽減につながります。今回、システム導入後の効果をCO₂排出量の削減として評価しました。

当ソリューションが貢献可能なSDGsのゴール



働きがいのある人間らしい仕事を実現する。



廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。



ICT導入による生産性向上、業務改善等によりお客様におけるCO₂排出量を削減する。

ボートレース整備システムによる業務の効率化と環境負荷の低減

システム概要

「ボートレース整備システム」は、ボートレース用のボートの整備記録を電子化し、ボート整備のDX化を実現するソリューションです。

ボートとモーター整備における交換部品や修理箇所、特にボートの転覆や衝突などによる修繕履歴は、機体のバランスが崩れるなどのボートのパフォーマンスに関係するため、レーサーにとって勝敗を左右する非常に重要な情報です。

従来、整備履歴は整備士が紙媒体に記録、レース結果などとともにDB（データベース）ツールへ入力し、全ボート分の記録を紙媒体として印刷し、レーサーが閲覧していましたが、当ソリューションにより、レース結果などの入力を自動化するとともに、整備士が直観的なUIを備えたシステムに各種情報を入力、DB化することで、レーサーはタブレットで紙の記録では確認できなかった充実した情報を閲覧可能になります。

これにより、紙で印刷した整備記録が不要となるだけでなく、操作性の高いシステムを利用することで整備士の整備記録作業の負担軽減が図れます。紙使用の削減および作業負担の軽減の結果、CO₂排出量の削減にも貢献します。

効果

・CO₂排出量の削減効果：約40% ※富士通フロンテック試算

・ボート整備記録の電子化による紙使用の削減 ※ボートレース場1場の開催日数180日／年、ボート数60基で試算

【導入前】紙媒体による整備記録の閲覧 約21,600枚／年（A4に換算して試算）

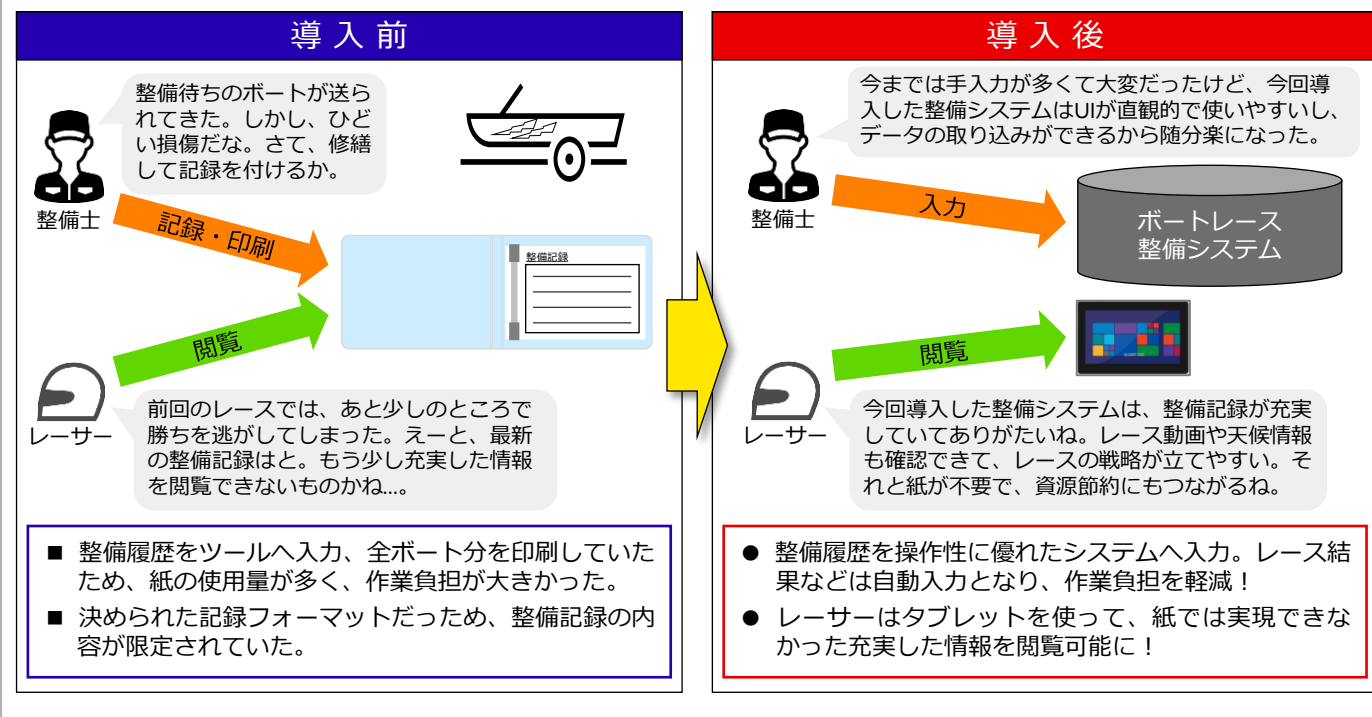
【導入後】タブレットによる整備記録の閲覧 0枚／年（例外的な紙での閲覧を希望するレーサー用の印刷・配付分は、試算から除外）

➡結果、約21,600枚／年の削減

※上記の効果は、現時点で富士通フロンテックが試算したものであり、システムの特性により結果が異なることを予めご承知おください。

ボートレース整備システムの導入によって、何故、紙の使用が不要となるのか？

- ◎ 当システムは、主にサーバー・ストレージ・タブレットで構成されており、交換部品や修理箇所などの重要な整備記録はすべてデータベース化（電子化）。レーサーはタブレットを使い、紙の記録では得られなかった情報も確認できるようになります。



お問い合わせ先

トータリゼータエンジニアリング株式会社

TA開発統括部 DXビジネスグループ DX開発チーム

製品・サービスに関するお問い合わせ：tel-productservice@dl.jp.fujitsu.com